

16歳の少年が見た 大患難の幻

<https://www.youtube.com/watch?v=9JDUkngkIY8>

A Minute to Midnite <https://aminutetomidnite.com/>

日本語訳および字幕 木下言波 DIVINE US <http://divineus.org/>

残忍、大混乱、共食い、その他、アメリカの悲痛な将来の啓示

その酒ぶねは都の外で踏まれたが、血は、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。 黙示録 14:20

私たちの所には、リスナーの皆さんから、驚くべき情報を含む力強い夢や、幻についてのEメールがたくさん届きます。

少し前、早朝より、我々のスタッフの1人、ホセ・ポランコから、非常に緊迫した状態で連絡がありました。彼の甥が幻を与えられたのです。私たちの国に差し迫っている事に関する幻です。目覚めた状態での幻の中では、私がこれまで聞いた中で最もパワフルなもので、このようなものを、これまで聴いた事はありません。

少年は、感情を高ぶらせながら、目の前に映し出される様子を説明しています。私の意見をあまり入れたくはありませんが、どうか今すぐ手を止めて、これを聴いてください。覚悟してお聴きください。これは、イエス・キリストを自分の救い主として知らない少年に与えられた幻を、生で録音したものです。時に、音が聞き取りにくい所もあるので、ブルック・アルドインが文章化し、目で追いながら聴けるようにしました。

2016年12月2日の今朝一番に、主が言われました。

「私は預言者ではなかった。預言者の仲間でもなかった。私は牧者であり、いちじく桑の木を栽培していた。ところが、主は群れを追っていた私をとり、主は私に仰せられた。『行って、わたしの民イスラエルに預言せよ。』と。」アモス書 7:14-15

ジョニー S. : イントロ

これからあなたが目にするのは、私、ホセ・ポランコが経験した他の何よりも特異な事で、これまでの私のクリスチャン人生の中で、聞いた事でもありませんでした。これは夢でもなく、科学小説映画でもなく、本に書かれた物語でもありません。これは16歳の私の甥に起こった、リアルで生の実体験です。甥は、私のすぐ目の前で、同時進行で幻を見ていたのです。

それは、私たちがテネシーに引っ越しをする準備をしていた頃に始まりました。2016年5月。私たちは、引っ越しまで数週間となって、最後の荷造りをしていた頃で、毎日

あっという間に時間が過ぎて行き、引っ越しの日がどんどん迫って来るように感じて、非常に疲れていたのです。

引っ越しまで、あと数日となった5月20日ごろ、私と妻は完全に疲れ果てていました。その日は早く眠る事にし、私たちは二人とも、あっという間に眠りにおちました。

その時は、神が私たちの人生を永遠に変えてしまうような事を用意されているとは、想像もせず。。。

突然、夜の 11 時に、誰かが私たちの家の玄関を必死で叩く音が、遠くで聞こえて来ました。驚いた事に、そこには私の妹が、甥を伴って立っていたのです。甥は、ショック状態で、涙が頬をつたって泣いているのは、明らかでした。妹は、彼が生で幻を見ていて、どうして良いのか分らなかったと言いました。私は、甥を寝室へ連れて行き、皆を追い出して、入って来れないようにドアに鍵をかけました。その時は、私はまだ甥が経験している事が、どれだけ深いのか、想像もしていませんでした。ただ、彼が私の家に来る前から、幻を見続けていると言う事だけ分かっていたのです。私の家族の中では、幻を見るのは、珍しい事ではありませんでした。それでも、甥が大丈夫かどうか、確認せずには居れませんでした。彼は、こう言った経験をするのは、初めてでしたから。この時、私は自分も実況中継に搭乘するということに気づいていませんでした。

私は、寝室に落ち着いてすぐに、甥がまだ幻を見ているのか確認しました。彼は目を見開いて、使徒パウロが言ったように、興奮状態でした。

彼が見た幻は、とてつもなく深く、彼は黙示録に書かれている大患難時に起こる事を見ているのだと、私は理解しました。

彼が遭遇した内容は、この通りです。（ホセ（J）と、ディビッド（D）の会話の録音より）

J：眠っていたのか？起きていたのか？

D：うん

J：分かった。で、テレビを観ていたの？

D：ぼくは、ただ時計をじっと見ていたんだ。

J：時計をじっと見ていたんだな？ 分かった。それで何が起きたんだ？

D：時計が 12 時になった瞬間

J：もう一回言って？

D: (泣きながら) 時計が12時をさした瞬間、色んな事が見え始めたんだ。とんでもない事を。人が生き残る為に、他の人達にしている事。たくさん火が見えた。たくさん血を見た。すごくたくさんの血。乾いた血じゃなく、たくさんの真っ赤な鮮血だった。

J: そうか。しっかり起きていたんだね？

D: うん。突然起こったんだ。人はみんな狂っていて。普通の人はずっと普通の人だと思っていても、普通の人が出来て来て、狂うんだ。その人達は、共食いを始めて、彼らは・・・彼らは、人間の生贄を捧げたりもしていた。今もまだ見えるよ。まだ見えてる。(ディビッド、声を上げて泣き始める)

J: 大丈夫だよ。大丈夫だ。どれくらい見ている？

D: 今もまだ見えてるよ。まだ見えてる (泣く)

J: そうか。大丈夫だ。

D: 泣く

J: なあ、分かるか？何が起きているのか、知りたいだろ？

D: 何？

J: 私たちがずっと話してた事を知ってるだろ？お前のお母さんと長い間話してた事。

D: 戦争 戦争よりももっとすごい事だ。これは・・・

J: 分かるよ。良く聞くんだ。

D: 戦争の後、もっとひどい事が起こるよ。勝つ人なんか、誰も居ない。みんな勝利を宣言しているけど、勝利なんか、どこにもないよ。これは善とか悪の戦いじゃない。ただ、自己満足の為に人を殺しているんだ。ただ、殺してるだけだよ。みんな、ただ殺す為に人殺しをしてる。生きる為でもなくて。殺す事で、欲求を満たす為に、人を殺してるんだ。スポーツ感覚で。

J: でもな・・・いいか？ 神は、お前に将来を見せておられるんだ。なぜかって言うと、神は、お前に理解して欲しいんだ。神がリアルである事。神はリアルだって、私たちは、ずっと言って来ただろ？神は、実在するんだ。彼は、愛なる神だ。でも、同時に裁きの神でもあるんだ。そして、神が今されている事は、警告なんだ。お前が時計を見た時、12時をさしていたと言ったね？その後、全ての事が悪くなったんだね？

D: うん。(ホセの言った事を、認めながら)

J: なあ、これは、神の時計なんだ。いいか？ 神は、夜中の盗人のように来ると言われたのを読んだ事があるか？ それは、神の時計が12時を指した時、彼が花嫁を迎えに来ると言う事なんだよ。

D: (泣き叫んで)オオオオオ

J: でも、聞くんだ。

D: (泣き叫びながら)それは、本当だよ！

J:全部本当だよ。そうだ！

D:ぼくはいつも疑ってた。これまでの人生の中で、ずっと疑ってたよ・・・ ああああ
あ!!

J: ほら、私の話を聞くんだ。お前がいくら疑っても、私たちは誰でも疑う時があるんだ。でもな、聞くんだ。神はリアルだ。誰が信じていようと、信じていなかろうと関係なくな。私たちがすべき事はただ、彼に近づく事。彼に罪を許してくださいと言うんだ。なぜかと言えば、時計が12時を指せば、お前にも、私にも、他の誰にも、出来る事は何もなくなってしまふんだ。これは、ずっと言われて来た事なんだ。分かるか？神は、お前を怖がらせる為に、こんな事を見せているんじゃないんだよ。神は、お前を側に引き寄せたいんだ。

D: 怖がってるんじゃないんだ。

J: 分かってる。

D: ぼくは、彼らのために泣いてるんだ。彼らの為に泣いてるんだ・・・ 恐ろしくて。もしこれが、最後だとしたら、ぼくはどんな事でもするよ。でも、ぼくが見ているのは・・・ ぼくが未だに見ているのは・・・ 本当に恐ろしい事で 何でなのか、分からない・・・ どうして男や女や、子ども達に、こんな恐ろしい事が出来るのか・・・ ただ生きるために・・・ あんなに普通の生活が・・・ あっという間にこんな恐ろしい事になってしまうなんて・・・ こんなの・・・ (泣く)

J:でもな、良いか？・・・今の全ての問題が起こっているのは、私たちも、ある時点で神をこの国から締め出す事を認めたからなんだ。神は完全に・・・ 人々は、神を締め出したんだ。「ここに居ないでくれ。」「自分達の、好きなようにしたいんだ。」とな。神を讃える代わりにな。だから、神は仕方なしに、人間にやりたいように振る舞うまま放っておかれた。

神は、お前に、これから起こる事を見せられた。そうすれば、お前は他の人に証言出来るだろう？そうすれば、お前も、神の前に正しく立ち返るだろう？そうすれば、お前にとって、お前の家族に対しても、他の人に対しても正しい事を行えるだろ？「わたし

の思いは、あなたがたの思いよりも高い。(イザヤ書 55:9)」と、聖書には書いてあるんだ。これが、人には理解出来ない。これは・・・靈的戦いだから。

D: カトリックに気をつけて。

J: なに？

D: カトリックには気を付けて。

J: カトリックには気をつけて？ 何でだ？

D: 最初の一言は、彼らから出る。

J: わお！ どう言う意味だ？

D: 戦争の最初の一言は、彼らが発するんだ。彼らは、それを平和だと言うけど、でもそれは腐ってる。

J: そうか。大丈夫だ。 おお なんて事だ

D: あああ！！ 腐ってる！

J: 大丈夫だよ。分かった。フロリダを出る準備をしていた時の事を、覚えているか？ どうしてリュックに荷物を詰めていたか、分かるか？ 緊急用のリュックを。出て行く為に、どうやって準備をしたか

D: 食べ物以外にも、色々な物が必要だよ。

J: そうか。でもな、私たちに出来る事には、限界がある事を忘れちゃダメだよ。だから、食べ物を詰め込んで、必要な物を集めた。なぜかと言えば、覚えておくんだ。ここでお前に必要なのは、神の前に立ち返る事だ。一旦神に立ち返ったら、神の安全地帯に入って、後は、神が私たちを守ってくれる。分かるか？

お前が見ている事を、神が見せているのは、神はお前に取り残されて欲しくないからなんだ。それが全てなんだよ。これは私たちに用意されたものじゃない。これは、他の人が救われて真の神とは何か、神の愛とは何なのかを理解する為に起こっているんだ。神は、世をとて愛された。だから、私たちを救うために、神のひとり子を与えられた。なのに、私たちは、まだ自分が全てを知っているように振る舞って、全て分かったようなふりをしてしまう。でも、人間は、何も分かっていないんだよ。

D: オオ ノー・・・ 彼らは何も分かっていないよ。ぼく達は、進歩しているけど、どれも良くなってもいない・・・核とか。核電力の為なのに、彼らは、誰が一番大きくて、一番悪い武器を持っているか、分かるようになる。彼らは、核を競っている。(動揺)

J: 大丈夫か？きつかったな。たぶん、お前は疑っていただろう。でも今は、疑っていない。今は、お前も神がリアルである事が分かった。神は、靈的な神なんだ。私たちは、ここ(地球)に住んでいる、でも内側には、神が創造された靈が存在しているんだ。その靈的存在が、魂と呼ばれていて、魂は神を求めている・・・お前自身を神に服従させる事を望んでいるんだ。でもな、私たちはみんなこの世的な体に住んでいて、この世的な思考と性質を持っていて、肉や、この世のものに惹かれてしまう。でも、神は私たちに、そんな風に生きて欲しくないんだよ。神は、お前に理解して欲しいんだ。彼は、私たちのところに来る事が出来る事を。たった今、神がお前にされているように。神が今されている事は、彼は、今お前の所に来ているんだ。神は、お前の魂にこれらを見せているんだよ。なぜかと言えば、お前は靈的存在だからだ。お前は、人間ではなく(私たちは人間の体に住んで、魂(思考や感情)を持つ靈的存在だと言うことを、悟らせようとしている)な？お前は、靈的体験をしようとする人間的でなく、お前は肉体に住む、靈と魂なんだ。分かるか？ だから、こんな風に 聖書には、私たちはこの世の“寄留者”(第一ペテロ 2:11)だと書いてあるんだ。

D: ぼく達の社会は、ぼくたちに限界を教えるものだ。

J: そうだよ。社会は、神を拒絶したんだと言う事を忘れちゃダメだ。

D: (何かを口ごもり)

J: 良く聞くんだよ。まず、お前がしなければならないのは、イエスの所に出る事だ。イエスに、自分の罪を許してくださいと言うんだ。それが、第一にしなければならない事なんだよ。それをすれば、神が癒されるべきものの、全てを癒してくださる。彼は、お前の中にすっかり違う者を創ってくださる。靈的に完全に目覚め、お前の思考をきちんと支配する事の出来る者。お前の中のこの世的な思考は全て、いずれ無くなるよ。それは、お前が肉の体に打ち勝つ事が出来るからだ。悪魔がお前の思考に与えようとする全てのものに打ち勝つ事が出来る。そして、神に近づく事が出来るんだよ。神には、彼がお前に見せたいと思うものは、何でも見せる事が出来るんだ。そしてそれは、いつも最善の為なんだ。今夜、恐らく神は、お前とお前の家族を救うために、お前に将来を見せられたんだろう。それは、実に素晴らしい事だよ。何もおかしな事じゃない。恥かしがらる事も何もない。神は、お前に将来を見せたんだ。これまで聞かされてきた事が真実だと、お前が理解する為に。それが全てだよ。彼は、お前をもっと近くに引き寄せたいんだ。私たちは完璧じゃない。私も完璧じゃない。誰も完璧な人は居ないよ。だから彼は私たちの為に死んだんだ。そうする事で、私たちが彼に近づけるように。そして彼は私たちを「これはわたしの息子だ。」「これは、わたしの娘だ。」というように見てくださる。私たちは、暗闇の真ただ中で彼を信じているんだ・・・全てのただ中で。なぜかと言うと、それは彼が真の神だからだよ。彼は、イスラエルの神なんだ。大丈夫か？まだ何か見えるのか？

D: (うなづく)

J: 何が見える？

D: もっと死

J: もっと死

D: 彼らは、教会を追っかけているよ。神を信じる人達を追っかけている。彼らを殺すんだ・・・少しずつ、痛めつけながら。出来る限り長く時間をかけて、殺すんだ。それを笑いながら見ている男がいる。その右側に、少し背の低いのがもう一人いる。二人とも、影だ。彼らは、二人とも影だ。全部の事が起こるのを、彼らは見てる。

J: 誰か、知ってる人は居るか？ 名前を知っている人？

D: (うなづき 否定)

J: そうか。すごい事が起こったな。きつかったと思うよ。でも、すごい事だ。教えてあげようか？

D: ん？

J: 何年も前、私は寝ている時に、体を離れたんだよ。覚えているのは、あの日、私は夢の中に居るような感覚で、すると下にくだり始めた。突然、私は部屋の中に居て、そこは、ほとんど真っ暗で、人も見えない。その部屋の中に人が居る事は分かるのに。その部屋の中に居る人々は、良い人達なんだ。はじめ、私は何が起こっているのか理解出来なくて、ただの夢だと思っていたんだ。そしたら、また下に行き始めて、遠くに火の玉が見えた。すごくすごく小さくて。電球のように、本当に小さい。それが私が下るに従って、どんどん大きくなって来るんだ。私はただ、下って、また下って行ったんだ。

D: それは、横向きに見えたの？ 真ん中にたどり着いた時？

J: 私が見たのは、電球のようなものが、どんどんどんどん大きくなって、ある地点では、地獄の人の声が聞こえたんだ。

D: 叫んでいたでしょ？

J: 叫んでいたよ。

D: 苦しみと痛みで。彼らは苦しみと痛みで叫んでいる。

J: その通りだ

D: 彼らは苦しんでいる

J: それは、彼らが神を拒絶したからだ。彼らがイエスを拒絶したからだ。でもな、私がお前にこの話をするのは、ある時点で、私はそこで起こっている全ての事を見て耐えられなくなって、叫び始めたんだ。「ここから出してくれ!! ここから出してくれ!!!!」と。全ての臭いを嗅ぐ事が出来た。人々も見えた・・・あれは、これまでで一番恐ろし

い経験だったよ。すぐに体を投げ出されたように感じて、目を覚ました。私は震えて叫んだよ。自分が遠くから地獄を見たんだと分ったんだ。な？神は、神を恐れさせる為に、こんな事をするんじゃない。神は私たちに近くに引き寄せたいんだ。彼は、聖書に書いてあることは、どんな事も真実で、全て存在するんだと見せているんだよ。私はすごく嬉しいよ。お前は怖かっただろう。でも、お前がこれを経験して、私は本当に嬉しい。この事で、お前の家族が救われて、神に近づくようになるだろう。特に、お前だよ。神は、お前を愛していて、彼は私たちみんなを愛しておられるんだ。神は、これから起こる事に対して、恐れるのではなく、備えよと私たちに言っているんだよ。

D: 備える？

J: 私たちには、御父がされている事の全部は分からない。きっと、携挙が起こる寸前だろう。聖書には、「その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。マタイ 24:36」と、書いてある。私たちは、時間が迫っている事を悟って、少ない中で備えをする事しか出来ないんだ。主が言われた事が、一旦事が起こり始めたら、全ての事が起こると彼が言われた。分かるか？裁きは、神の子ども達の為じゃないんだ。彼は、私たちに救われる道を備えてくださった。彼は、ただ、私たちに信じて欲しいだけなんだよ。だから、終わりは神の子ども達には関係ないんだ。神は、彼の子ども達に扉、安全への門を開いておられるんだ。私たちが、戦争を見ようと見なくても。もしかしたら、悲しみを見るかも知れない。今、見ているよな。でもな、聖書はこれを「産みの苦しみ」と呼んでいるんだ。私たちが好むと、好まざるとに関わらず、今は終わりの時なんだ。基本的に、私たちに来る事は、ただ手放して、神の導きに従う事。だから私も、自分の周りの大切な人や、愛する人の反応を見て、イライラしたり、ストレスを感じる事があるんだよ。彼らの感情に関わらず、神はリアルだから。私が言っている事が分かるね？

D: うん。

J: 彼は、私たちが何かの途中で死ぬことは願ってないんだ。彼は、私たちの安全を願ってる。大丈夫か？ ちょっと落ち着いた？ 幻は止まったか？ 祈ろうか？

D: まだ。

J: まだ？

D: まだ。

J: 分かった。

D: 火山が・・・たくさんの火山が噴火する。ぼくが見てると、リング・オブ・ファイアー（環太平洋地震火山活動活発地帯）が、円を描いて、それは日本からカリフォルニアまで・・・全地域で。その全部が噴火するんだ。そして、そこから新しい陸が形成さ

れて、でもそれは陸ではなくて、溶岩なんだ。それがいっぱいある。ものすごい量の溶岩が噴き出して・・・

J: 色々な事を見たんだね。

D: たくさんの方が死ぬよ。そしてその人達は、人間や動物に捧げられるんだ。でも、そんな事をして、何よ良くなる。ただみんなが狂って行くだけで、彼らは何でも受け入れて、狂い始めるんだ。さっき見たみたいに。いずれそれは止まって、そこからさらに悪くなるだけで、人はもっともっと狂って行って、狂気になり始めるよ。それから、彼らは人を殺して、部族を創る。彼らはみんな野蛮人なんだ。規則はない。規則なんて何もない。彼らは、動物を生きのまま引き裂いて、そのまま食べるんだ。今、見えるのは、やぎ、羊、ねこ、犬、牛。彼らはそれらを傷つけず、それらをそのままで食べ物として見ているんだ。まだ生きて、動いているのに、食べ物なんだ。それが何かなんて、関係なくて。共食いなんか、当たり前で、彼らは、それがおかしい事だなんて思っていない。彼らは、自分が行きたいと思えば行くんだ。ただ行って、やりたいようにする。あああああ・・・（深いため息）アメリカは、良くなる。アメリカは、野蛮人の集まりになる。アジアは・・・まるで全体が、地獄を礼拝する者のようで、彼らは何かを拝んでいるけど、それは神じゃない。

J: アジア？

D: 全体・・・中国人、アジア人、日本人・・・彼らは自分達の神々を拝むようになる。それは、象徴的なものでなく、実在のものになる。それらは、あたかもそこに存在するかのように、実質的なものに見える。それらには・・・それらの皮膚は違った色で、それは像のようにも見えるけど、ただ命を得るんだ。いくつかは小さくて、いくつかは等身大、それからいくつかは巨大で。それで終わり。これで終わりだよ。

J: 覚えている中で、アメリカの何かは見たか？

D: 残忍行為と、大混乱。ただ、残忍行為と大混乱があるだけだよ。ここでは、何も礼拝しない。全てが物質主義で、手に入るものはなんでも掴む。そうして生き残るんだ。向うでは、彼らは主に自分達の神々により頼んでる。これで全部だよ。ぼくが見たは、これで全部だよ。

J: お前は、私がこれまでの人生で見たものよりも、ずっと多くを見たんだな。きっと。

D: でも、ぼくは、これは見てはいけなかったんだと思う。

J: おいおい。良く聞くん。彼は、お前にとって最善しか望んでおられない。あのな今は、お前の疑いも・・・もし、まだ疑いがあれば・・・

D: ああ神様!!! あああああ・・・（これで、彼の疑いが全く消えた事を証明している）

J: 分かった 分かった。 な？私が言いたい事が分かるか？ これらの事は、良い事か？悪い事か？

D: 分からない。

J: これは、すごくイイ事だよ！彼は、お前にどんな疑いも持って欲しくないんだ。彼は、彼が真のイスラエルの神である事を、お前に信じて欲しいんだ。神は、彼が全てのものに勝る神である事、彼は他の誰よりも、私たちの事を愛している事を、私たちに理解して欲しいんだ。神は、お前にも、私たちの誰に対しても、傷つくような事は許されない。だから、私たちはできる限りの事をしようと努めているんだよ。まず、私たちがしなければならない事は、フロリダを出る事だ。ここでの時間がもう少ない事は、分かっているね？

D: 起こった事は、全部一度に起こるんだ。ぼくが見た事が、次から次へと。1つの事が初めに起こって、とかそう言うのじゃなく 全部が一緒に起こって、そしてどんどん悪くなって行くんだ。

J: 落ち着いたら、それとも、お前がそうしたいなら、一緒に祈ろう。そして神に言うんだ。「ぼくの罪を許してください。疑った事を許してください。これまでの人生で、ぼくが行った中で、あなたが望まない全ての事を許してください。」・・・私たちはみんな罪を犯すからね。それが人生だから。でも、彼は、ただ私たちが「神様。許してください。」言うのを望んでおられるだけなんだ。彼は、私たちの罪の代わりに十字架で死ぬため、イエスを送られたんだ。私たちが一旦 それを認めて、私たちが一旦 「ヤシユア・ハ・マシア（メシア・イエスの意）」と言ったなら、これは彼のヘブル語の名前だよ。私たちが一旦それを認めたなら、神は私たちの罪を許し、私たちを新しい人間—神による新しい人間に—に変える事が出来るんだ。だから、今日お前に起こった事は全て、多分、お前が見た事は、神がお前に確信を持って、神によって全ての事が行われると言う、約束の中でお前に安心して欲しくて起こったんだ。見ろよ！私が着てるのと、同じ色のシャツを着て！

D: (笑)

J: すごいじゃないか！

D: お腹が空いたよ。

J: そうか、お腹が空いたか？ それは普通のことだよ。

D: すごくお腹が空いてるよ。

J: そうか。サンドイッチでも食べるか？ 何が食べたい？

D: タコベル（タコスのお店）が良いな。これが始まった時はお腹が空いてなかったのに、今はすっごくお腹が空いてるよ。

J: 分かるよ。今、すごく疲れてるだろう？神が私たちに何かを示されたり、何かを見せられる時は、戦争に行くようなものなんだ。霊的な戦いなんだよ。聖書を見れば、誰かが癒されたり、誰かが死から蘇ると、ほとんどの場合、彼らがまず言うのは、「お腹が空いた」なんだ。「今、癒されたばかりじゃないか！ お腹が空いただって？！冗談だろ？！」でも、それは普通なんだ。これは霊的なものだからね。何でも好きなものを食べて良いよ。でも、まずお前がしなければならぬのは、神に立ち返る事だ。そんな気になれないなら、それで良いけれど。

D: ううん。（神に立ち返る）

J: なら二人で祈らないとな。

D: ぼくが祈らないと。

J: おい。私はお前の為に、ここに居るんだ。良いな？ お前に祈りが必要な事は分かっている。でもな、私はお前の救いの証人になる為に、ここに居るんだ。どうやって祈るか教えるからね。その後は、神がいつもいつもどんな時でも、お前と一緒にだ。彼はただ、お前に彼の事を認識して欲しいだけなんだ。神は、私がこれまで見た事もないような形で、お前の所に来られたんだ。お前が経験した事は、すごい事だよ。信じないかも知れないけど、私はすごい衝撃を受けてるよ。たった一晩で、ものすごくたくさんの事を見た。人が色々な事を見るのを見て来たし、私自身も色々な事を見てきたけど、お前のは爆弾発言だよ！

D: んんん（疲れ果てて）

J: 今、祈ろうか？手を貸して。神よ・・・ お前も、私の後に続いて言うんだよ イイね？出来るか？

（ホセが祈り始め、ディビッドが後に続ける）

D: 御父よ。私は今、全ての名の上の御名、イエス・キリストの御名によって、御前に出ます。今夜、ぼくをお許してください。ぼくの罪をお許してください。（二度目に、罪の許しを祈りながら、ディビッド泣き始める）これまでに、ぼくがあなたに対して犯した、全ての事をお許してください。ぼくが傷つけた、全ての人に対してした事を、お許してください。（ディビッドが、自分の救いを自ら率先して祈り始めると、ホセは黙り）・・・許してください。ぼくを許してください。あなたに対して犯した、全ての罪を許してください。人に対して犯した罪を、許し下さい。また、彼ら全てをお許してください。彼らは、自分が何をしているのか分からないのです。（ホセは、静かに一緒に祈っている）ぼくも、自分が何をしているのか、分かりません。（ディビッドは、祈りながら、泣き続ける。）でも、ぼくは今ここで、あなたが許してくださるよう、お願いします。ぼく

も許せるように助けてください。ぼくが、許した事を、忘れないように助けてください。何が真実で、何が真実でないのか、人々が見えるように、助けてください。

J: おお イエス様 イエス様の御名によって、祈ります。御父よ。今、この時、彼の名が、いのちの書に加えられますように。彼をあなたの血潮によって、清めてください。ハレルヤ！（アメージング グレイスを歌い始め、天の言葉で祈り始めた）

おかえり!!!!

まとめ

何回聴いても、パワフルで、初めて聞いたように突き刺さります。みなさんが今、お聴きになったのは、私たち全員にとって、うっとりするような、また試されるようで、それぞれが1人でこれを聴きながら、深い聖さに静まりました。私は、これを聴いた後、口もきけなくて・・・きっと他の誰もがそうでしょう。主のみことばだけが、聖霊によって与える事の出来る力と、臨在をそこに感じました。ただ、立ち止まって、耳を傾ける時だったのです。私は、「どうして主は、救われてもいない、16歳の少年に、まるで昔の預言者に言うように、語りかけられるのだろうか？」と考えました。そして、気づいたのです。これがしるしだ、と。誰も耳を傾けていないから。もしそうだとしたら、これはとても貴重な事で、だから神は、誰もが思いもよらないような若者を捕まえて、私たち、このAMTM ミニストリーの全員が、主の幻の中に 座す事が出来るようにされたのです。今、これをみなさんと・・・全世界と、シェアする時が来ました。これは、ほとんどの人が味わう事の無い特権でしょう。こう言う事は、普通閉ざされた場所で行われますから。みなさんが、お聴きになった事を、決して忘れないようにと願います。私たちも、みなさんが忘れてしまうのではないかと思います。こういった事によって、私たちは主が来られるのが、どれほど近いかを実感するのです。

ジョアン スタヒルが、AMTMの代表として、AMTMより免責条項をお伝えします。ディビッドの預言の一部にあった、カトリックについて、私たちの立場を明確にしておくのは、とても重要です。私たちが、預言や夢、幻や、言葉を、個人から受け取る時、私たちは、それを編集する立場にありません。私たちは、あえてしません。私たちは、伝えられたメッセージを尊重します。また、私たちは全ての預言を受け入れてはいません。私たちは時間をかけて、それを吟味し、私たちひとり一人が、心を注ぎ出して祈ります。そして、私たちの受け取った預言が、健全な聖霊の導きにより、主から受け取ったものであると、私たちの全員が同意した時に、注意深く発表し、また慎重に扱います。

しかしながら、私たちは 明確にする必要を感じています。ディビッドは「カトリックに気をつけて。戦争の最初の一言は、彼らから出る。彼らは平和だと主張するが、それは腐っている。」と言いました。これが、間違った形で受け取られる事は、私たちも理解しています。カトリック信者から、攻撃される事もあるかも知れません。これは、

真実からかけ離れた事ではないのかも知れません。私たちが信じるのは、主がもしかしたら、何かバチカンの上層部が終わりの時、反キリストに関して、重要な役目を果たすのかも知れない。ある意味で、彼の広告塔となるのかも知れない。私は、この言葉が、世のカトリック信者個人に向けられたものではないと信じています。しかし、腐敗した宗教の頭が、最終的にアルマゲドンに繋がる戦争に関わるようにも聞こえます。私たちの、A Minute to Midniteの意図は、視聴者の皆さんが知的情報と、聖書で伝えられている、これから起こる出来事について、新しく情報を得ることです。異なる信仰を持つ集団を対象にはしていません。ディビッドの預言に関して、私たちは一切の謝罪は致しません。私たちは、ただこれをみなさんに提供し、そしてみなさんがこれに耳を傾け、主の前に注ぎ出し、主がみなさんに、啓示してくださるようにと祈ります。私たちは、A Minute to Midniteを真の情報源の1つとしてくださるみなさんを、心から愛し、尊重し、深く感謝しています。

God Bless. A Minute To Midnite